

# MONTHLY NEWS LETTER

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

ビジネスと投資に役立つマンスリーニュースレター

1

January | 2026

高橋FPの社長が知りたいお金の話

2026年 お金の制度改正カレンダー

海外経営者列伝

アンディ・ジャシー

データと画像で考える、未来の世界

米国のエネルギー政策

1月の主要経済カレンダー

金融政策決定会合、米FOMC ほか

マネークリップ

どこから見るかで変わる、相場の景色

アジアの世界遺産

キナバル自然公園



写真: イメージマート

辰巳天井の次は午尻下がり？

## 干支で読む相場と、急変への備え

新しい年を迎え、気分一新してマーケットに向かうという方も多いだろう。

2026年の展望はレポートも数多く発行されている。ここでは違う角度から投資を考えてみよう。

2025年の日本株は、巳年ということもあり「辰巳天井<sup>たつみてんじょう</sup>」という昔からの言い回しを思い出す一年だった。円安や海外マネーの流入、AIブームに乗った半導体関連などの力強い業績見通し、高市政権の経済政策などへの期待が重なり、日経平均株価は5万円台に到達。史上高値圏を何度も試すなど、強い地合いが続いている。そして、2026年は「午尻下がり」の年回りとなる。2025年の相場の勢いやチャートの形から、1990年のバブル崩壊を連想する人も多い。

### 冷静に数字を分析する

干支の格言は、相場の傾向を覚えやすく表現したものだ。動物の特性や語呂合わせなども使われている。確かに「卯跳ねる、辰巳天井<sup>う</sup>」と過去3年間の流れは当たっている。ただし、それは欧米発のインフレーションからの回復や円安、息の長いAI・半導体ブームによる業績期待、日本企業のガバナンス改革といった材料が積み上がった結果とも言える。



同じ干支は12年に一度しか巡ってこないため、比較的長めの実績を持つ日経平均株価を使っても、それぞれのサンプル数は6～7個程度。午年にはバブル崩壊の1990年と、ITバブル崩壊の余波が残る2002年の大きな下落が含まれる。干支別に見た時のパフォーマンスは、その影響が大きい。

一方で、季節性についてはどうだろうか。年初には「1月効果」「<sup>せつぶんてんじょう</sup>節分天井・<sup>ひがんぞこ</sup>彼岸底」などの言葉が並ぶ。これらは、決算期や税制、需給の節目に合わせて動く値動きの傾向を示した経験則。株価は当然需給によって決定する側面もあるため、あながち外れているとは言えない。ただし、日経平均のデータを見るとアノマリーに近い季節性は現れていない。マーケットの「カレンダー」程度の認識に留め、判断の拠り所は経済の状況や業績といった基本的な数字にすべきだろう。

### 好調が続いても、警戒は緩めない

とは言え、警戒は必要だ。データセンターへの積極的な投資は続いており、AIや半導体の需要が急に落ち込むことは考えにくい。AIがその投資に見合った成果を出せるかについてはいまだ見方が分かれている。円安が続けば輸出企業の追い風となるが、それはインフレの要因でもある。当局からは円安への警戒感を示す発言が続いており、為替介入が行われる可能性もあるだろう。

相場の急変に備えるためには、いくつかの方法がある。例えば以下のようなやり方だ。

①**定点観測をする**：金利、為替、主要株価指数など、投資と関係する数字を定期的に見る習慣を持つと、異常を察知しやすくなる。

②**下がった時の対応を決める**：どれがどの程度下がったら見切るのか、そしてどの資産に移すのかを決めておく。

③**テーマを絞る**：特に値動きの大きい株などの場合は、核となるテーマや関連する銘柄に絞り、周辺は欲張りすぎない。

④**理由を整理しておく**：一時的な下げに動揺しないために、購入時になぜ買ったのかを簡潔にまとめておく。理由が消えたら見直す、理由が残るなら維持する。

⑤**時間分散を活用する**：積立などを利用して投資のタイミングを分散させる。

これらは代表的な「方法論」だが、何より重要なのは予め運用の目的や目標を決めておき、それに沿った手段を採用すること。多くの人にとって、投資に使える時間は限られている一方、マーケットには情報が溢れすぎている。

年末年始は証券会社の展望レポートなどをもとに新年の運用戦略を考える方が多い。投資先だけではなく、投資のやり方についても少し考えてみてはどうだろうか。

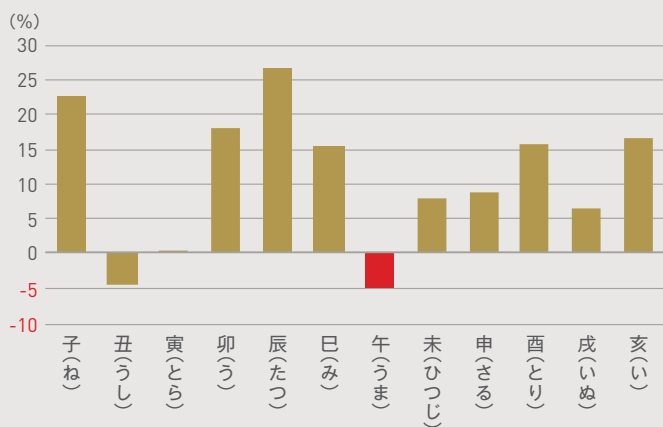
M

■ 図表1 日経平均株価の推移

(年次、1949年～2025年、2025年は11月末時点)



■ 図表2 日経平均株価の年間騰落率、干支別の平均値



※1950～2025年は前年終値からの騰落率、1949年は取引開始日からの騰落率、2025年は11月末時点のデータをもとに算出

(出所)日本経済新聞、QUICKのデータをもとに当社作成

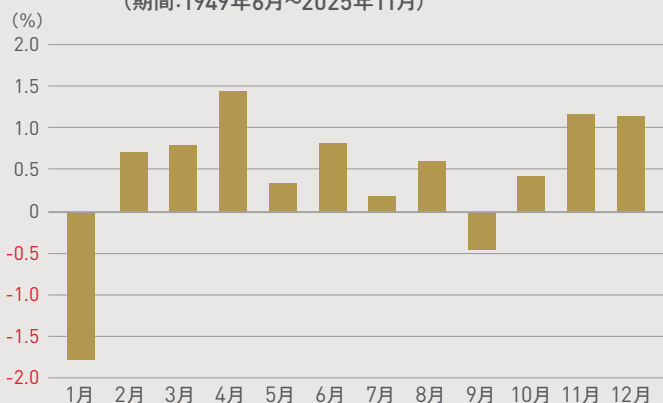
■ 図表3 過去の午年の株価騰落率とできごと

1954年	-5.8%	第五福竜丸事件、自衛隊発足
1966年	+2.4%	文化大革命、ビートルズ来日
1978年	+23.4%	新東京国際空港（成田空港）開港
1990年	-38.7%	バブル崩壊
2002年	-18.6%	ユーロ流通開始
2014年	+7.1%	ウクライナ危機（ロシアによるクリミア半島併合）

(出所)QUICK、報道資料等をもとに当社作成

■ 図表4 日経平均株価の月別騰落率

(期間:1949年6月～2025年11月)



(出所)日本経済新聞、QUICKのデータをもとに当社作成